

# 2022年度第3四半期 決算説明会資料

2023年2月14日

100年をつくる会社



Copyright © 2023 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- 2022年度第3四半期決算について説明します。

1

**決算のポイント** 3

2

**業績ハイライト** 4

3

**事業別の概況** 7

4

**株主還元・政策保有株式** 12

Copyright © 2023 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

2

- ・ 2022年度第3四半期決算のポイント、業績ハイライト、事業別の概況、株主還元・政策保有株式の順で説明します。

# 1 決算のポイント

## 第3四半期決算

### 連結・単体ともに前年同期比増収増益

- 単体業績 : 施工中工事の着実な進捗により売上高が増加し、増収効果により、利益が前年同期を上回る
- 海外関係会社 : 米国開発事業の堅調な推移等により、増収増益

## 通期業績予想の上方修正

### 連結・単体ともに前年度比増収増益 連結当期純利益を1,050億円に上方修正

- 単体業績 : 大型工事等の順調な進捗、建設事業の売上総利益率改善の見通しにより  
前回予想（2022年11月発表）からの売上高、利益の増加を予想
- 海外関係会社 : 外貨換算額の減少等により、前回予想からは売上高、利益の減少を予想

## 配当予想の修正（増配）

### 期末配当金を4円引き上げ、1株当たりの年間配当金を62円に修正

- ・ まずは決算のポイントを説明します。
- ・ 2022年度第3四半期決算は、連結・単体ともに前年同期比増収増益となりました。  
単体業績については、土木事業、建築事業ともに施工中工事が着実に進捗し、売上高及び利益を押し上げました。  
海外関係会社については、米国における開発事業が堅調に推移し業績に貢献していることに加え、前年同期と比較して円安に為替が変動し、外貨換算額が増加しています。
- ・ 続いて、通期業績予想についてです。  
単体業績については、当期受注工事を含め大型工事が順調に進捗し、建設事業の売上総利益率についても前回予想の水準から改善する見通しです。  
海外関係会社については、前回予想と比較して円高に為替変動していることに伴う外貨換算額の減少を主因に、売上高、利益の減少を見込んでいます。  
連結全体として、単体が海外関係会社を補い、前年度比増収増益を見込んでおり、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度の1,038億円を上回る1,050億円に上方修正しました。
- ・ この通期業績予想の上方修正を踏まえて、配当予想における期末配当金を4円引き上げ、1株当たりの年間配当金を62円に増配しています。

## 2 業績ハイライト | 第3四半期実績

### 連結・単体ともに前年同期比増収増益

- 単体土木事業及び建築事業の売上高増加、米国開発事業の着実な業績貢献が主因

| (億円)                 | 連結              |                 |        | 単体              |                 |        |
|----------------------|-----------------|-----------------|--------|-----------------|-----------------|--------|
|                      | 2021年度<br>第3四半期 | 2022年度<br>第3四半期 | 前年同期比  | 2021年度<br>第3四半期 | 2022年度<br>第3四半期 | 前年同期比  |
| 売上高                  | 14,825          | 17,531          | +2,705 | 8,791           | 10,179          | +1,387 |
| 営業利益                 | 886             | 932             | +46    | 555             | 575             | +19    |
| 経常利益                 | 1,068           | 1,212           | +144   | 666             | 773             | +106   |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 814             | 820             | +6     | 529             | 564             | +35    |
| 建設事業受注高              | 12,970          | 17,461          | +4,491 | 8,048           | 11,336          | +3,288 |
| (換算レート) 単位:US\$      | ¥111.92         | ¥144.81         |        |                 |                 |        |
|                      | 2021年度末         |                 | 前年度末比  | 2021年度末         |                 | 前年度末比  |
| 有利子負債残高              | 3,599           | 6,094           | +2,494 | 1,993           | 3,243           | +1,250 |

- 2022年度第3四半期決算の概要です。
- 連結業績について、売上高は1兆7,531億円、営業利益は932億円、経常利益は1,212億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は820億円となり、いずれの項目も前年同期を上回っています。
- 単体については、土木事業、建築事業ともに売上高が増加し、利益を押し上げました。
- 海外関係会社においては、米国開発事業の着実な業績貢献に加え、為替換算レートが9月末時点の1米ドル144円81銭となり、前年同期と比べ円安に変動したことから海外関係会社の外貨換算額が増加しました。
- 建設事業受注高は、国内、海外ともに大型工事を複数受注したことから、1兆7,461億円となりました。
- 有利子負債残高については、積極的な不動産開発投資や外貨換算増の影響があり、連結、単体ともに大きく増加していますが、単体建設事業における工事代金の回収増加を第4四半期に見込んでいるため、通期予想は連結5,500億円、単体2,300億円から変更していません。

## 2 業績ハイライト | 通期予想

### 連結・単体ともに前年度比増収増益を予想

- 単体業績の向上が、外貨換算額の減少を上回る

| (億円)                                             | 連結           |                                                |                                               |        |        | 単体           |                                                |                                               |        |       |
|--------------------------------------------------|--------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------|--------|--------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------|-------|
|                                                  | 2021年度<br>実績 | 2022年度<br>前回予想<br><small>2022年11月10日公表</small> | 2022年度<br>最新予想<br><small>2023年2月14日公表</small> | 前年度比   | 前回予想比  | 2021年度<br>実績 | 2022年度<br>前回予想<br><small>2022年11月10日公表</small> | 2022年度<br>最新予想<br><small>2023年2月14日公表</small> | 前年度比   | 前回予想比 |
| 売上高                                              | 20,796       | 24,300                                         | 24,000                                        | +3,203 | △300   | 12,449       | 13,900                                         | 14,400                                        | +1,950 | +500  |
| 営業利益                                             | 1,233        | 1,130                                          | 1,210                                         | △23    | +80    | 810          | 720                                            | 820                                           | +9     | +100  |
| 経常利益                                             | 1,521        | 1,410                                          | 1,500                                         | △21    | +90    | 924          | 870                                            | 1,010                                         | +85    | +140  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益                              | 1,038        | 1,000                                          | 1,050                                         | +11    | +50    | 721          | 680                                            | 770                                           | +48    | +90   |
| 建設事業受注高                                          | 19,298       | 22,300                                         | 21,100                                        | +1,801 | △1,200 | 11,508       | 13,700                                         | 13,800                                        | +2,291 | +100  |
| (換算レート) 単位:US\$    ¥115.02    ¥144.81    ¥132.70 |              |                                                |                                               |        |        |              |                                                |                                               |        |       |
| 2021年度末                                          |              |                                                |                                               |        | 前年度末比  | 2021年度末      |                                                |                                               |        |       |
| 有利子負債残高                                          | 3,599        | 5,500                                          | 5,500                                         | +1,900 | +0     | 1,993        | 2,300                                          | 2,300                                         | +306   | +0    |

※ 海外関係会社業績における外貨換算減少額見込み（前回予想比）：

売上高▲490億円、営業利益▲20億円、経常利益▲40億円、当期純利益▲25億円、建設事業受注高▲415億円

Copyright © 2023 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- 2022年度の業績予想については、前回予想を修正し、連結・単体ともに前年度比増収増益を予想しています。
- 連結売上高は、2兆4,000億円に修正しました。これは過去最高の水準です。
- 利益は、営業利益を1,210億円、経常利益を1,500億円、親会社株主に帰属する当期純利益を1,050億円と予想しており、いずれも前回予想を上方修正しています。
- 単体業績は、当期受注工事を含め大型工事の施工が順調に進捗していることから、土木事業、建築事業ともに売上高の更なる増加を予想しています。売上総利益率についても土木事業を中心に改善を見込んでおり、各段階利益を上方修正しています。
- 為替換算レートは12月末時点の1米ドル132円70銭であり、前回予想の9月末時点から円高方向に変動しました。この影響により、海外関係会社の外貨換算額は、売上高において▲490億円程度、当期純利益において▲25億円程度減少しましたが、単体業績の向上がこれを上回りました。

## 2 業績ハイライト | 主要受注工事

第3四半期も継続して国内・海外において大型工事を複数受注

### <2022年度第3四半期(3か月間)における主要受注工事>

| 種別 | 工事名称                               | 発注者                          | 工事場所   |
|----|------------------------------------|------------------------------|--------|
| 土木 | 長野自動車道（特定更新等）<br>岡谷高架橋改良工事（平成30年度） | 中日本高速道路株式会社                  | 長野県    |
| 土木 | 馬毛島基地建設 滑走路工事                      | 国土交通省                        | 鹿児島県   |
| 建築 | サンクチュアリコート日光新築工事                   | リゾートトラスト株式会社                 | 栃木県    |
| 建築 | （仮称）杉乃井スタンダード新棟新築工事                | オリックス不動産株式会社                 | 大分県    |
| 建築 | 八重洲ダイビル建替計画                        | ダイビル株式会社                     | 東京都    |
| 建築 | セキュアデータセンター東京第4センター                | セコム株式会社、<br>セコムトラストシステムズ株式会社 | 東京都    |
| 海外 | 台北國賓飯店建替工事※1                       | 国賓大飯店股份有限公司                  | 台湾     |
| 海外 | ポーチェン中部ジャワ工場 新築工事※2                | HARDASES ABADI INDONESIA     | インドネシア |

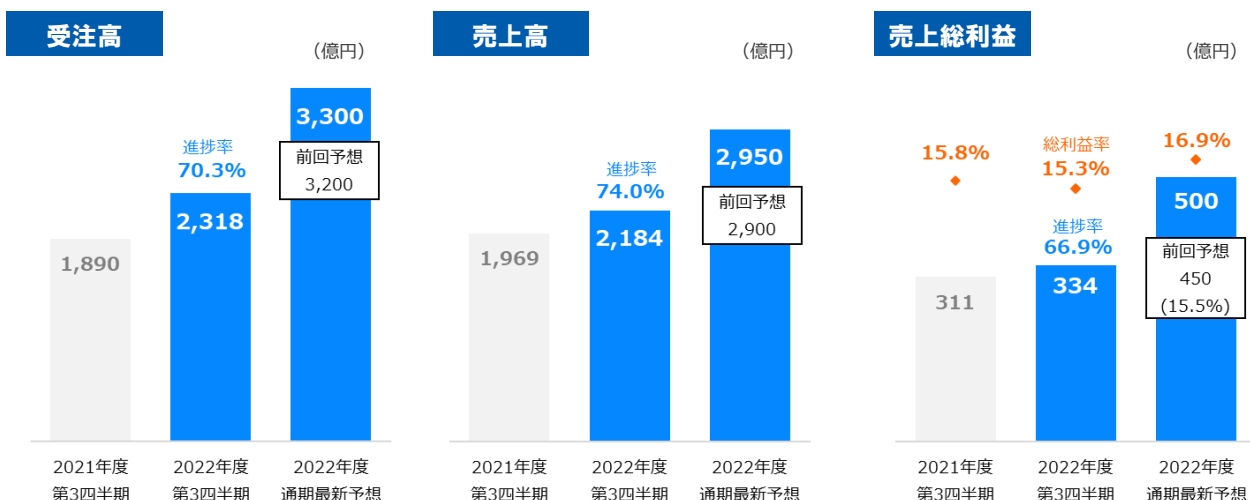
※1は中鹿營造の受注工事

※2はKAPの受注工事

Copyright © 2023 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- ・ 2022年度第3四半期3か月間の主要受注工事です。
- ・ 国内外において複数の大型工事を受注しており順調に推移しています。
- ・ 単体土木事業では、「長野自動車道 岡谷高架橋改良工事」や「馬毛島基地建設 滑走路工事」などの大型工事を受注しました。
- ・ 単体建築事業では、「サンクチュアリコート日光新築工事」など記載の4工事のほか、半導体関連などの大型生産施設を複数受注しています。
- ・ 海外関係会社では、記載している台湾のホテルやインドネシアの生産施設のほか、米国における物流施設などの大型工事を受注しました。

### 3 事業別の概況 | 土木事業(単体)



#### 2022年度第3四半期

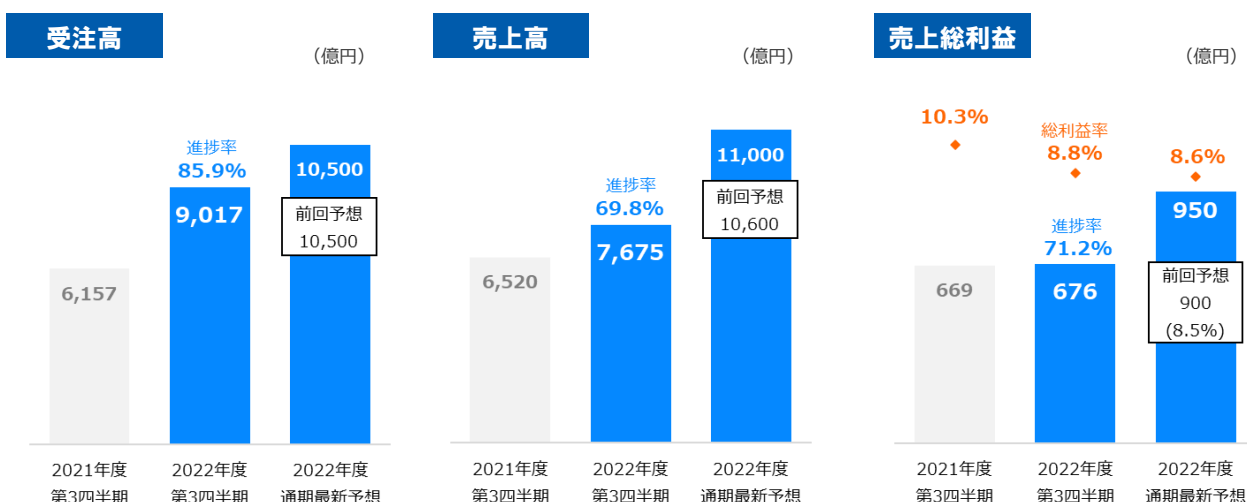
- 受注高は、大型工事の受注などにより、前年同期を上回った
- 売上高は、施工中工事の順調な進捗によって増収となった
- 売上総利益は、増収に伴い前年度比増益となった

#### 2022年度 通期予想

- 受注高は、大型工事などの受注状況を勘案し、前回予想から100億円の増加を見込む
- 売上高は、第3四半期までの進捗状況を踏まえ、前回予想から50億円の増加を見込む
- 売上総利益率は、期末竣工工事を中心とする損益改善により、16.9%への向上を見込む

- 続いて、事業別の概況を説明します。最初に、単体の土木事業です。
- 受注高は、大型工事の受注を主因に、前年同期を上回る2,318億円となりました。通期予想については、優先交渉権を得ている案件などの状況を勘案し、前回予想から100億円の増加を見込んでいます。
- 売上高は、施工中工事の順調な進捗により、前年同期比増収の2,184億円となりました。第3四半期までの順調な進捗状況を踏まえ、通期予想についても、前回予想から50億円の増加を予想しています。
- 売上総利益は、増収に伴い前年同期比増益の334億円となりました。売上総利益率は15.3%と前年同期を下回っていますが、売上高の増加や今後の竣工工事を中心とする損益改善により、通期予想については、売上総利益を500億円、売上総利益率を16.9%に上方修正しています。

### 3 事業別の概況 | 建築事業(単体)



#### 2022年度第3四半期

- 受注高は、大型工事を複数受注したことから、前年同期を大幅に上回った
- 売上高は、大型工事の施工本格化によって増収となった
- 売上総利益は、総利益率は前年度から低下したものの、増収に伴い増益となった

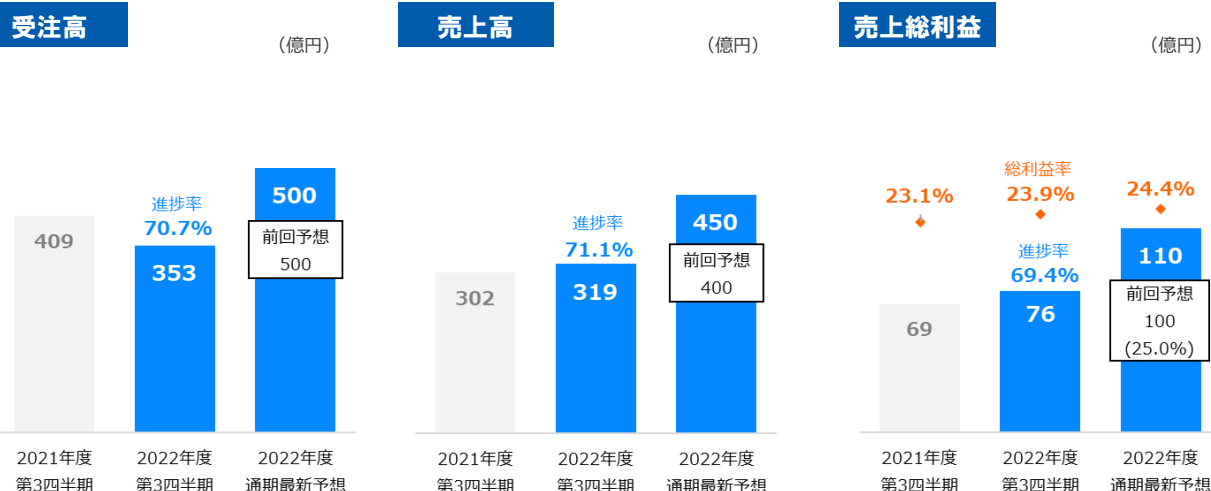
#### 2022年度 通期予想

- 受注高は、前回予想から変更はない
- 売上高は、第3四半期までに受注した大型工事の施工状況なども踏まえ、前回予想から400億円の増加を見込む
- 売上総利益は、売上高の増加を主因に、前回予想から50億円の増加を見込む

- 単体の建築事業です。
- 受注高は、生産施設や宿泊施設などの複数の大型案件を受注したことから、前年同期を大幅に上回る9,017億円となりました。  
通期の受注高については、第4四半期に受注を予定している内定・高確度案件が一定程度あることから、予想の達成は可能と見込んでいます。
- 売上高は、手持ち大型工事の施工が本格化していることなどを主因に、前年同期比増収の7,675億円となりました。  
第3四半期までに受注した大型工事の施工状況なども勘案し、通期予想についても、前回予想から400億円の増加を見込んでいます。
- 売上総利益は、売上高の増加に伴い、前年同期比増益の676億円となり、売上総利益率は8.8%となりました。  
通期の売上総利益は、売上高の増加を主因に、前回予想比50億円の増加を見込んでいます。



### 3 事業別の概況 | 開発事業等(単体)



#### 2022年度第3四半期

- ・ 賃貸事業において安定した利益を確保したため、前年同期と同水準の業績となった

#### 2022年度 通期予想

- ・ 賃貸事業に加え、設計・エンジニアリング事業などの堅調を見込み、売上高・売上総利益の増加を見込む
- ・ なお、第4四半期に固定資産（賃貸用不動産）売却により、特別利益（40億円程度）の計上を予定している

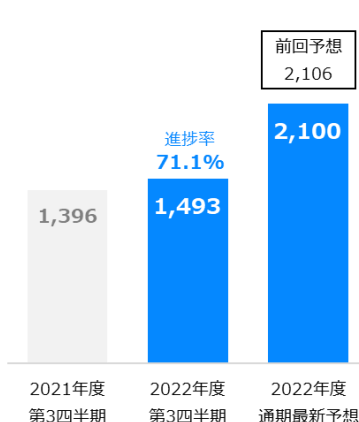
（参考）単体開発事業と開発系国内関係会社の当期純利益の合算値（国内開発事業の経営管理数値）の通期見込76億円に変更はない

- ・ 単体の開発事業等です。
- ・ 第3四半期は、賃貸事業において安定した利益を確保したため、前年同期と概ね同水準の業績となりました。
- ・ 通期予想については、賃貸事業に加えて、設計・エンジニアリング事業などの利益貢献を見込み、前回予想と比較して、売上高は50億円、売上総利益は10億円の増加を予想しています。
- ・ なお、第4四半期に賃貸用不動産の売却による40億円程度の特別利益の計上を予定しており、単体開発事業と開発系国内関係会社の当期純利益を合算した、経営管理数値の通期見込76億円に変更はありません。

### 3 事業別の概況 | 国内関係会社

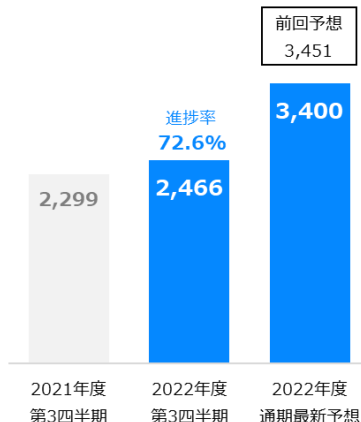
#### 建設受注高

(億円)



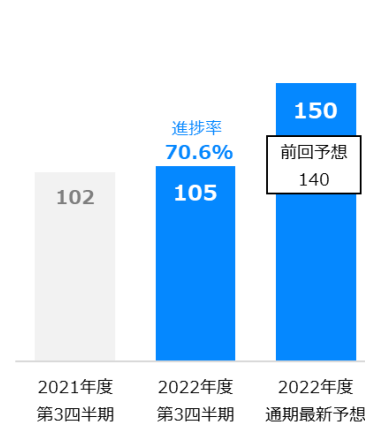
#### 売上高

(億円)



#### 四半期純利益

(億円)



#### 2022年度第3四半期

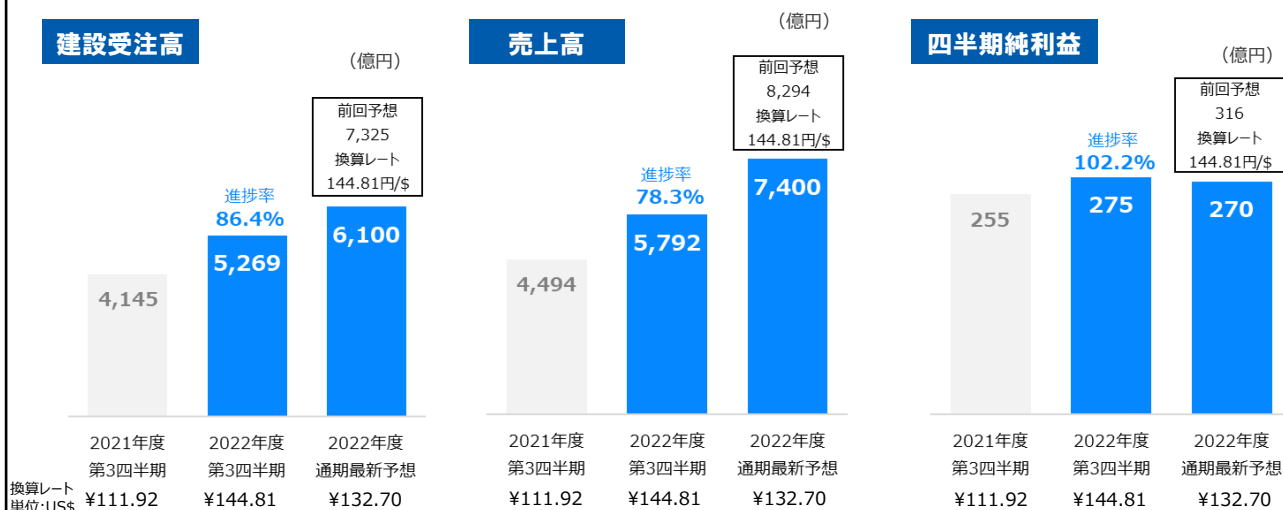
- 建設受注高は、大型工事の受注などにより、前年同期を上回った
- 売上高は、施工中工事の順調な進捗を主因に、増収となった
- 四半期純利益は、大型工事の損益改善や建物リース物件の売却などを主因に、前年同期比増益となった

#### 2022年度 通期予想

- 第3四半期までの実績を踏まえ、売上高は前回予想から50億円の減少を見込む
- 当期純利益は、持分法適用会社等の業績改善を見込み、前回予想から10億円の増加を予想

- 国内関係会社です。
- 建設受注高は、大型工事の受注などにより、前年同期を上回る1,493億円となりました。
- 売上高は、施工中工事の順調な進捗などにより、前年同期比増収の2,466億円となりました。
- 四半期純利益は、大型工事の損益改善や建物リース物件の売却などにより、前年同期と同水準の105億円となりました。
- 通期予想については、各事業会社の業績見直しを見直した結果、前回予想と比較して、売上高は50億円減少する一方、持分法適用会社等の業績改善を見込み、当期純利益は10億円増加すると予想しています。

### 3 事業別の概況 | 海外関係会社



#### 2022年度第3四半期

- ・ 米国開発事業の堅調な推移に加え、外貨換算額の増加により増収増益

#### 2022年度 通期予想

- ・ 前回予想からの円高方向への為替変動に加え、工事発注時期の遅れや景気動向を踏まえた開発物件売却の先送りなどにより、建設受注高・売上高・当期純利益ともに修正した
- ・ 為替レートの変動（前回予想 144.81円/US\$ ➡ 最新予想 132.70円/US\$）による外貨換算減少額  
建設受注高: ▲415億円 売上高: ▲490億円 当期純利益: ▲25億円

- ・ 海外関係会社です。
- ・ 第3四半期業績は米国開発事業の堅調な推移に加え、円安方向への為替変動による外貨換算額の増加の影響がありました。
- ・ そうした状況の中、建設受注高は、前年同期が高水準であった米国が減少する一方で、台湾、東南アジアが増加し、前年同期を上回る5,269億円となりました。
- ・ 売上高は、全ての地域で増加し、前年同期比増収の5,792億円となりました。四半期純利益についても、米国開発事業の貢献により、前年同期比増益となりました。
- ・ 通期予想については、前回予想の為替レート1米ドル144円81銭を12月末時点の1米ドル132円70銭に見直したことによる外貨換算額の減少に加え、工事発注時期の遅れや景気動向を踏まえた開発物件の売却予定件数の減少を見込み、建設受注高を6,100億円、売上高を7,400億円、当期純利益を270億円に修正しました。
- ・ なお、海外関係会社の会計期間は1月から12月であり、2022年度の為替換算レートは12月末レートで確定していることから、以降の為替変動による2022年度業績への大きな影響はありません。

## 4 株主還元・政策保有株式

### 株主還元

- 株主還元方針に基づき、期末配当金を前回予想から**4円増配の33円**とし、**1株当たりの年間配当金を62円に修正**
- 連結配当性向は**29.0%**、既に実施済みの自己株式取得を含めた総還元性向は**38.5%**となる見通し

|            | 2020年度<br>実績 | 2021年度<br>実績 | 2022年度                |                                         |
|------------|--------------|--------------|-----------------------|-----------------------------------------|
|            |              |              | 前回予想<br>2022年11月10日公表 | 最新予想<br>2023年2月14日公表                    |
| 1株当たり年間配当金 | 54円          | 58円          | 58円                   | <b>62円</b><br>(中間配当金 29円) + (期末配当金 33円) |
| 1株当たり当期純利益 | 193.13円      | 208.00円      | 203.02円               | <b>214.14円</b>                          |
| 配当性向       | 28.0%        | 27.9%        | 28.6%                 | <b>29.0%</b>                            |
| 自己株式取得     | 100億円        | 200億円        | 100億円                 | 100億円                                   |

### 株主還元方針

配当性向30%を目安とした配当に努めるとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案し、自己株式の取得など機動的な株主還元を行う

- ・ 続いて、株主還元と政策保有株式の縮減状況についてです。
- ・ まず、株主還元について、連結当期純利益予想を上方修正したことを踏まえて、配当性向30%を目安とする株主還元方針に基づき、期末配当金を前回予想から4円引き上げ、1株当たりの年間配当金を62円に修正しました。
- ・ 今回の業績の上方修正及び増配により、連結配当性向は29.0%、既に実施した自己株式取得も含めた総還元性向は38.5%となる見通しです。

## 4 株主還元・政策保有株式

### 政策保有株式の縮減状況

- 2021年度からの累計売却額は239億円となった
- 中期経営計画に掲げた、「3か年で300億円以上」の売却目標に対して順調な進捗

| 縮減状況               | 2021年度<br>実績 | 2022年度<br>第3四半期累計 | 2023年度<br>目標     |
|--------------------|--------------|-------------------|------------------|
| 売却銘柄数<br>(一部売却を含む) | 17銘柄         | 15銘柄              | —                |
| 売却額                | 148億円        | 90億円              | 3年間累計<br>300億円以上 |

### <参考>

| 保有状況            | 2020年度末          | 2021年度末          |
|-----------------|------------------|------------------|
| 銘柄数<br>(うち上場株式) | 320銘柄<br>(144銘柄) | 316銘柄<br>(135銘柄) |
| 貸借対照表<br>計上額    | 2,665億円          | 2,587億円          |

- 政策保有株式の縮減状況についてです。
- 中期経営計画に掲げた財務施策の一つとして政策保有株式の縮減を進めており、2021年度から2023年度までの3年間で300億円以上を売却することを目標としています。
- 2021年度の17銘柄148億円の売却に続き、2022年度は第3四半期までの累計で15銘柄90億円を売却し、目標に対し順調に進捗しています。

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部  
コーポレート・コミュニケーショングループ  
E-Mail : [ir@ml.kajima.com](mailto:ir@ml.kajima.com)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

Copyright © 2023 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

決算の説明は以上となります。